

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2770301162		
法人名	株式会社 エフ・エム・シー介護サービス		
事業所名	FMCグループホーム(4階)		
所在地	大阪府寝屋川市本町16番5号		
自己評価作成日	平成25年4月20日	評価結果市町村受理日	平成25年6月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 親和ビル4階		
訪問調査日	平成25年5月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念と実践の心得をホームの玄関と事務所に掲げている。また、フロア一会議時等に、目標や理念についての確認を定期的に行っている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域で開催される、餅つきやお花見・地藏盆・敬老会等に招待を受け参加したり、一緒に消防訓練を行ったりしている。また、散歩時などに挨拶をし、顔見知りの関係になっている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	散歩時や行事の際に、入居者様の認知症についてのお話や説明をさせて頂き、理解して頂ける様に努力している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者様や地域の方々からの意見を参考にケアの見直しや、向上出来るように取り組んでいる。また、地域行事へのも、積極的に参加している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村の担当者の方との連絡は、密にとれていない。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアを行っていますが、入居者様の安全を守る為に、EV・窓の施錠は行っています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待が起らない様に、スタッフ間でも言葉使い、介助等に対して、注意・防止に努めている。また、高齢者虐待防止関連法に関しては、勉強会を行い認識する様にしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を利用されている入居者様がおりますが、詳しく学ぶ機会を持つ事が出来ていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居以前に「重要事項説明書・入居契約書・看取り契約書」について説明し、書類をお渡しして持ち帰って頂いており、その上で契約を行っています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様やご家族様の意見や要望は、職員間で共有し、反映出来るように取り組んでいる。また、運営推進会議の際等に、外部者へ表せるようにし、反映させる様に取り組んでいる。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	業務に関する意見や提案を、話しやすい環境を作ることを心掛けており、また、会議の際などに意見を聞く機会を作っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の努力、勤務状況を把握し、向上心を持って働いてもらえる様な環境作りを目指し、館長にこまめに状態の報告を行なう様にしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	未経験の職員に対しても、1つ1つ指導を行い、個々のスキルを把握し、出来ない事に関しては、出来るまで指導を行なう。また、外部の研修に参加したり、施設内でも定期的に研修を行う様にしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設の方との交流はほとんどないが、同じグループ内の施設との交流を行い、サービスの向上出来る様に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者様の、困っている事や、不安な事、要望等に耳を傾け、安心して過ごして頂ける様に、積極的に関わりを持ち、信頼関係を築ける様に努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の、困っている事や、不安な事、要望等に耳を傾け、入居者様を安心して預けて頂ける様に、信頼関係を築ける様に努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	可能な範囲で対応を行い、ご家族からのご要望があれば、専門医療機関などへの受診等の対応も行っています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様の認知度や身体を考慮して、その方に合ったお手伝い(洗濯物をたたむ、食器拭き)等をして頂き、共に生活している事を実感して頂ける様に取り組んでいます。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様の面会時には、現在の状況を報告・説明を行い、ご家族にも共に入居者様を支えて頂ける様な関係を築ける様に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人や場所に関して、可能な範囲で関係を維持する様に努めて、途切れない様に努力しています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様が孤立しない様に、間に職員が入って関係を取り持ち、入居者様同士が関わりを持って、支え合えるように取り組んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了した方には、道でお会いした際に、挨拶をしています。また、相談に来られた場合は、しっかりと支援を行いたいと考えています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居以前の生活習慣の把握に努め、可能な限りその方の希望を受け入れる様に努力しています。どうしても、困難な場合はご本人にしっかりと説明を行い、納得して頂ける様検討・実施を行っています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族様から、情報収集を行い、その方の生活歴や生活環境、サービス利用の経過等の把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	認知度やADLに合った、日課やレクをして頂いており、その日の心身の体調を考慮して、過ごして頂く様にしています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアカンファレンスとフロア会議を毎月実施しており、入居者様の課題やケアのあり方に関して話し合いを行い、その際の意見とご家族の意見を反映する様にしています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を細かく記録に残す様にしており、情報を共有し、会議やその都度の話し合いで、より良いケアを実践し、介護計画の見直しに活かすようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	1階に整骨院、2階にジムがあり、利用されています。整骨院には希望されている方が利用され、下へ行けない方には、フロアでマッサージを行っています。ジムでは、リハビリ・スポーツレクを楽しまれています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会のイベントに参加したり、近隣の公園へ散歩に行ったり、近くのスーパーに買い物に行ったりする機会を作っています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	内科は契約している医院から2週間に1階火曜日の午後に往診があります。歯科は毎週土曜日に往診があります。入居者様に特変があれば、すぐに主治医に連絡し、速やかな対応を行っています。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が在籍しており、入居者様の特変時は、すぐに報告し、指示のもと対応を行っています。また、日々の状態に関してこまめに報告・相談を行い、より良い介護を行えるように努力しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	提携している病院があり、またその中でそれぞれのかかりつけの病院を把握しています。入院時は、ご家族と相談のもと病院を決定しています。退院時には、看護サマリーと医療情報を頂く様にしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルケアについては、「看取り契約書」を入所時に方針等の説明のうえ同意を得ている。主治医の指示のもと、看護師・介護職員が治療・支援に取り組んでおり、方針が変更になった場合は、主治医・ご家族と共に話し合いを行い、より良い支援を提供出来る様に努めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入居者様の急変や事故発生時に備えて、会議時に対応の方法について話をしたり、看護師からの指導やマニュアルをしっかりに見るように指導・実践している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練を実施しており、全職員が避難誘導については認識出来ており、マニュアルをしっかり頭に入れておく様に、指導している。地域との協力体制を築く為に、合同で消防訓練を実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉使いに気を付け、入居者様の誇りやプライバシーを損ねない様に、尊敬の意を持って対応をする様に努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	レクリエーションや行事への参加は、強制ではなく、入居者様ご本人の意思のもと参加して頂く様にしており、声掛けは行いますが、拒否があった場合は、無理に参加を勧めない様にしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様のその日の体調を考慮した過ごし方をして頂ける様に取組んでおり、可能な範囲で、k棒にそった支援を行えるように努力しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に訪問美容の方に来て頂き、カットを実施しています。また、元気な方には、美容院へ行って頂いています。ご自分でお化粧をされている方もおられます。外出時はおしゃれ着を着て頂く様にしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食前・食後にテーブルを拭いて頂いたり、食器拭きを手伝って頂いたりしています。また、お誕生日会や行事の際は、重箱を使用する等して、楽しんで頂いています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスについては、専属の管理栄養士が献立を作っています。食事・水分の摂取量の把握はしっかりと行っています。また、刻み食やミキサー食の方がおられますが、体調・食材に応じてその都度調整しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎週土曜日に歯科往診に来られ、重点的に口腔ケアをして頂いています。朝と昼にはうがい、夜は歯磨きをしっかりと行っています。口腔ティッシュを使用する場合があります。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定期的に排泄誘導を実施すると共に、入居者様個々にあった間隔でのトイレ誘導や、その日の状態を考慮して、声掛けや誘導を行っています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の原因や影響を理解し、便秘傾向の方には、バナナやヨーグルトや食物繊維の多い野菜を摂って頂いたり、それぞれの状況に応じた予防と対応を実施しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	1週間に2回の入浴を実施しているが、好きな日や時間に入って頂く事は出来ていない。また、男性職員に介助されるのが嫌な方には、必ず女性職員が介助を行っており、体調に合わせて、足浴やシャワー浴を実施している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	無理に寝て頂くのではなく、眠くなるまで、フロアにて過ごして頂いています。入居者様の体調の観察をしっかりと行い、しんどそうな時は、すぐに臥床して頂く様にしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方される薬の内容、処方箋を確認する様に指導している。また、薬の内容については、主治医・薬剤師・看護師からの説明を受けて、ミスの無い様に注意して、服薬介助を行っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	歌や書道等のレクリエーションを定期的を実施しており、楽しんで頂ける様に支援しています。また、日曜日には、入居者様にも手伝って頂き、おやつ作りを行ったりと、楽しみと役割を持って頂ける様に取り組んでいます。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候の良い時期に、近くの公園や神社に散歩に出かけたり、スーパーに行ったり、喫茶店でお茶を飲んだりする機会も作るようにしています。また、春には菖蒲園、秋には菊人形を見にお出かけをしました。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	散歩の途中でおやつを購入したり、神社に行った際に、お賽銭を自分でされる方もおられるので、そのような方には、少しだけ持って頂いています。また、お金を理解されていない方もおられます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族に電話を掛けたいと言われる入居者様もおられますが、ほとんどの方は電話を掛けられることはありません。また、お友達にお手紙を書かれたりされる方もおられますし、年賀状などには、可能な入居者様には、一言書いて頂いたりもしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアーのリビングには、行事の時の写真や、入居者様にも手伝って頂いた季節のカレンダー等や作品を飾っています。また、入居者様が過ごしやすい様に、ソファの位置なども調整して、くつろげるスペースを作るように努めています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った入居者様同士が、ゆっくりと過ごせるように、ソファなどを設置しています。また、特に座席を決めていない為、好きな場所に座って頂ける様にしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前に使用されていた家具などを持参されたり、使い慣れた物等を居室において、自分の部屋である事を認識して頂ける様に、居心地良く過ごして頂ける様に工夫をしています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレには、大きな文字で表示し、入居者様の居室の扉には、ご自分の部屋が認識出来る様な表示をしています。		